

## 第 21 回 JAMS 研究大会シンポジウム 「東方政策(ルックイースト政策)の 30 年と今後の展望」 趣旨説明

1982 年、マレーシアはマハティール首相(当時)のイニシアティブで東方政策(ルックイースト政策)を開始し、今日まで継続している。東方政策は、「日本と韓国の成功と発展の秘訣が国民の労働倫理、学習・勤労意欲、道徳、経営能力等にあるとして、両国からそうした要素を学び、マレーシアの経済社会の発展と産業基盤の確立に寄与させようとするマレーシア政府の政策」(在マレーシア日本国大使館ホームページ)である。これまでに、延べ約 15,000 人のマレーシア人が日本に派遣され、高等教育機関の専門課程で学んだり、産業・ビジネス研修を受けるなどした。2011 年には、東方政策の集大成の一つと言えるマレーシア日本国際工科院(MJIIT)が開校するに至った。

東方政策が実施されてきた 30 年間、マレーシアは著しい経済発展を遂げて高所得国入り目前となるなど、同政策を取り巻く環境は大きく変わりつつある。今年の 30 周年を機に、マレーシアと日本の政策当局者やビジネス界は、新しい時代に応じた東方政策のあり方について模索を始めており、研究者に対しても政策提言を求めてきている。しかしながら、政策レビューや先行研究は、外務省が行った委嘱調査や日本人とマレーシア人によるいくつかの研究結果などに限られている。東方政策は、日本とマレーシアの二国間関係において支柱とも位置づけられることに比べて、研究の蓄積は十分とは言えない状況である。

こうした東方政策をめぐる研究上の課題を踏まえ、日本マレーシア学会は、今年度、外務省による JENESYS プログラムによる東方政策関係者の訪日や若手研究者のマレーシア派遣など各種政策に対して協力してきた。加えて、東方政策に関心のある会員が各種学会や研究会の場において、それぞれの専門分野から東方政策の評価や政策提言などを行ってきた。今回のシンポジウムは、政策当局者、東方政策元留学生の参加も得て、東方政策の果たしてきた意義を浮き彫りにして、今後の新たな可能性を見出す試みである。